クリエイティブディレクション／ブランディングデザイン：SPREAD

SPREADは、独自のクリエイティブリサーチからコンセプトとブランドルーツを導き出し、空間や香りを含むブランド全体を統括したクリエイティブディレクションを行い、ロゴ・プロダクト・コミュニケーションツール等のアートディレクションとデザインを手がけた。

「澄んで満ちる、頭と心」
Kläre（クレーレ）とは、ドイツ語で「澄みきっている」こと。また、サロンでは、最新技術により頭皮を洗い流したのちの高濃度美容液を塗布する施術を実施すること。究極のリラックスを目指し、心まで澄んで満ちるような空間と香りの体験を提供すること。これらのことから、ブランドコンセプトを ”澄んで満ちる、頭と心” と導きだした。

「黒い森」
ドイツの自然豊かな山岳地帯Shwarzwald（シュバルツバルト）、ドイツ語で「黒い森」の意。密集して生えるマツ科トウヒ属の針葉樹ドイツトウヒの木によって、暗く見えることがその名称の由来。ミスティーでミステリアス。グリム童話の発祥の地でもある。深い森とどこまでも続く沼地の風景は、童話に出てくる美しい場所そのもの。
しかし1970年代に、酸性雨の被害によって50％程の木々が枯死したが、国民にとってかけがえのないものと意識されていたことから、環境問題への本格的な取り組みが進んでいき豊かな自然を取り戻していった。
この森の持つストーリー、生命力と澄み切った空気に、クレーレが提供する世界観が共鳴し「黒い森」をブランドイメージのルーツとした。
SPREADは実際にこの地に滞在し、リサーチと撮影を行った。木々が生い茂る植物群からなる森の深い緑色や霧がかった時の壮大な景色、この地で取れる鉱物の澄んだ青色からインスピレーションを受けたオリジナルカラーパレットを制作。ロゴや空間、プロダクトなどへと展開した。撮影した山岳地帯の写真と映像はリーフレットやウェブサイト等のコミュニケーションデザインに用いている。

ロゴデザイン
「パーソナル・ヘッドスキンケア」と掲げ、クレーレはその時のお客様の状態に合うように調整した施術とホスピタリティを行う。手を通してお客様に寄り添うことから、一通一通したためる手紙を思い浮かべた。そこで、中世後期の筆記体に基づいたドイツ語の古い手書き形式「Kurrentschrift（クレントシュリフト）」を研究し、そのリサーチを発展させたロゴをオリジナルで描き起こした。

ホームケアプロダクトデザイン
シンプルな形状ながら奥行き感のあるボトルを用い、オリジナルカラーパレットをもとに透け感のある深い青緑を調色。「黒い森」の生命力と澄み切った空気を表現した。

コミュニケーションツールデザイン
クレーレの極上のヘッドスキンケア体験を視覚コミュニケーションからもサポート。オリジナルカラーパレットをもとに構成し、特別感のあるゴールドを配色した。ブランドブックやウェブサイトでは五感を刺激しエネルギーがチャージされるような黒い森の映像や写真とともに構成。ギフトボックスではドイツ語によるブランドメッセージを大胆な金箔押しで演出。名刺やショップカードの細部にいたるまでクレーレの世界観を演出した。

SPREAD プロフィール
山田春奈と小林弘和によるクリエイティブ･ユニット。長い時間軸で環境を捉えるランドスケープデザインの思考と鮮烈な印象を視覚に伝えるグラフィックデザインの手法を融合させ、あらゆる記憶を取り込み「SPREAD=広げる」クリエイティブを行う。生活の記録をストライプ模様で表す「Life Stripe」を2004年より発表。色の表現を追求した作品をAlcova（ミラノ）、Ventura Centrale（ミラノ）、Rappazmuseum（バーゼル）、在スイス日本国大使館、Alcova Miami、Red Dot Design Museum（シンガポール)、富山県美術館、Spiral（東京）など国内外で展開。主な仕事に、「国立新美術館開館10周年」記念ビジュアル、ビューティーブランド「Celvoke」ブランディング、「バーバリー」インスタレーション、工場見学イベント「燕三条 工場の祭典」ブランディング、ジャパン・ハウスロンドン「The Carpenters’ Line」「Living Colours」「Biology of Metal」展覧会デザイン、Intersect by Lexus「Mesh Virus-Control Flag Partition」デザイン、JR東日本「Yamanote Line Museum」リブランディング、「Art Fair Beppu」クリエイティブディレクションなど。これまでに、Red Dot Design Award グランプリ、German Design Award ゴールド、グッドデザイン賞、読売デザイン賞など国内外のデザイン賞を受賞。
https://spread-web.jp

空間デザイン：岡田哲史建築設計事務所　SOA: Satoshi Okada architects
銀座の目抜き通り、都会の喧騒を抜けた扉の奥に「クレーレ」のブランドのルーツ“黒い森”を抽象化した異空間を作りました。グリーンを基調とした趣の異なる３つの部屋は、数寄屋建築も手がける一流の手仕事によって生み出された本物の空間。金沢の箔業者によるカウンターや職人の手による壁のスタッコアンティーコ、山形段通の絨毯など、麗しの贅を尽くしました。天井の高さの変化によって、包み込まれるようなスケール感覚を創出し、日常から解き放たれた寛ぎの時間をお過ごしいただきます。

岡田哲史建築設計事務所 プロフィール
1995年の設立以来，建築プロジェクトの企画立案から設計監理まで豊富な実績を誇る。2006年イタリア建築家協会主催の「デダロ•ミノッセ国際建築賞」グランプリ受賞を機に世界が注目するところとなり、今日では日本を代表する建築設計事務所として国際的に高い評価を得ている。SOAが手がけるデザインに共通する最大の特徴は「美しさ」と「品格」にある。人々の営みに配慮した豊かな空間性と繊細なディテール、洗練されたバランス感覚が国を問わず多くの人々に感動を与えてきた。機能性、快適性、信頼性、経済性に配慮した工学デザイン、革新的な構造デザイン、人間工学に基づく家具デザイン、素材や手の温もりを尊重したインテリアデザイン、建築と調和するランドスケープデザインなど、その活動範囲は多岐にわたる。
https://www.okada-archi.com

岡田哲史（おかださとし）　　建築家・建築史家・博士（工学）　イタリア建築家協会名誉会員
コロンビア大学大学院修了、早稲田大学博士課程修了。建築家としての活動のかたわら、国内外の大学で研究教育や講演活動もおこなっている。建築家として本格始動するまえの10年間、18世紀イタリアの古典主義建築を専門に研究する歴史家として活動していたという異色の経歴をもつ。研究活動で幾多の文献にあたり数多の都市や集落を訪問するうちに、数千年の時を経てもなお人々に愛される「美しい建築」とめぐりあい、その経験で育まれた感性や知恵が建築家活動の揺るぎない資本となっている。

パルダリウム：ADA LAB - Aqua Design Amano Laboratory　株式会社アクアデザインアマノ
＜クレーレ＞では、ビジュアルコンセプトである「黒い森」を自然そのままの形で表現すべく、この美しいガラスの中の森＜パルダリウム＞でお客様をお迎えします。
苔や地衣類を中心とした25種類以上の植物が微生物との良好な相互関係を織り成し、悠久の時の中で繰り返される美しい生命と豊かな水によって自然の循環を再現。この小さな箱に澄み渡る、心地よい自然のエネルギーを身体いっぱいに感じていただければ幸いです。

ADA LAB プロフィール
風景写真家としても活躍した天野尚(新潟市生まれ) により1992年に設立。水槽に生態系など自然の要素を取り入れた独自の水草レイアウトスタイル<ネイチャーアクアリウム>を確立し、品質とデザインにこだわった水草育成関連器具「ネイチャーアクアリウム・グッズ」の開発により注目を集める。 2015年に、ポルトガル・リスボン海洋水族館にて世界最大のネイチャーアクアリウム（全長40m）を制作。 2022年に初の直営店となるアンテナショップ「ADA LAB GINZA」を東京・銀座にオープン。
水草レイアウトの普及と振興、発展を目的とした世界規模のコンテストIAPLC（世界水草レイアウトコンテスト）を2001年より主催し、世界に「革新性、独自性、創造性」を備えた次代の水景を見出す取り組みも行なっている。近年はガラスケースとLEDライトで植物を育てる<パルダリウム>をニュースタイルインドアグリーンとして提案。ADA水景クリエーターのリーダーを務める本間裕介が本パルダリウムを担当。
https://www.adana.co.jp/

＊パルダリウムとは
ガラスケース内に主に熱帯雨林の情景をつくり込み、植物の育成や観賞を楽しむスタイルのこと。ガラスケースとLEDライトを組み合わせることで、デスクの一角やベッドサイドに配置できるようになり、日当たりを気にせずに部屋のどこでも楽しむことができる。

香り：STUDIO AOIRO　アオイロ
＜クレーレ＞のコンセプト「澄んで満ちる」や緑濃く生命力あふれる黒い森を感覚的に解釈できるオリジナルの香りの依頼を受け、シグネチャーフレグランス「GLASBACH（グラースバッハ）」を制作しました。
黒い森の代表であるドイツトウヒやもみを軸に、苦味とシトラス感の混ざった松ぼっくり樹脂や重厚なオークモス（苔）などリアルな森の要素を合わせ、スモーキーでマットな質感をもたらすブルーサイプレスや鮮明に青々しい印象を持つオレンジの葉などを織り交ぜています。ゆっくりと深く呼吸をしながら、心身がほっこりと軽くなり、穏やかに前を向いて一歩を踏み出す、そんな香りのクリエーションで空間に息を吹き込みます。

STUDIO AOIRO プロフィール
マニュエル クシュニグと吉国志津子による、ベルリンを拠点に活動する嗅覚デザインのスタジオ。空間のコンセプトやその個性から抽出した五感要素を香りにおきかえながら、共感覚的解釈に特化したオリジナルの香りを手がける。原料となる素材は、植物から蒸留・抽出された精油やアブソリュートのみで組み立てられており、自然かつ抽象的な印象をうみだす香りのバランスを追求している。
活動範囲は国境や業界を越えて幅広く、スイスの建築家ヘルツォーク＆ド・ムーロンの VITRAHAUS (ヴィトラハウス) やコルシカ島の HOTEL SON DE MAR (ソン・デ・マール) など、それぞれの建築や空間への雰囲気をデザイン。自動車ブランドのRange Rover (レンジローバー)やDefender (ディフェンダー)、ベルリンのホリスティック・ジム、Hagius (ハギウス) の香りコンセプト、はたまた Ignant (イグナント) の世界観を感覚的な体験に変換したりと、さまざまなプロジェクトを手がける。空間に息を吹き込む、雰囲気の一部となる香りのクリエーションでヨーロッパを中心に世界各地のブランドとコラボレートしている。
https://www.aoiroair.com